

あの質問。その後は【上水道事業の一元化】

本定例会において、久木野地区【猶須簡易水道組合】より水質改善を求める陳情書が議会に提出された。来年2月には南阿蘇村誕生10年を迎えようとしている。水道事業においても同様にあるのが望ましいが、様々な問題を抱え、本村合併時までにはそこに至らなかった。その後、早急な一元化を求める議員からの一般質問も多々ありながら、事業の進捗が見受けられないのが実態である。今回の陳情を機にレポートした。

水道事業一元化の必要性

水道を初めインフラと呼ばれる道路・橋梁・体育館等の施設は、1960〜70年代の高度成長期に急速に整備された。これらは全国的に、現在老朽化が進み、大規模な改修の時期を迎えている。村内各簡易水道を上水道に統合することにより、一元した管理ができる。その利点として、財政・技術基盤・維持管理体制の強化などが見込まれ、結果、村内各地域に、安心・安全な水道水を安定供給することができる。

村内水道事業の現状は

水道事業の統合は、合併前から協議が重ねられてきた。維持管理をはじめとする数々の問題のため、旧村の事業体系のまま現在に至っている。料金体系を見てみると、白水地区「1つの簡易水道」は、使用量のトン数で計算、長陽地区「1つの上水道・4つの簡易水道」は、契約口径で計算、久木野地区「16の簡易水道と飲料水供給施設」においては、それぞれで管理運営されている。中には老朽化が進んだ施設が数多く見受けられ、水道施設の大規模な更新及び事業体系の再構築の時期を迎えている。



今までの動き

さまざまな状況を踏まえ厚生労働省では簡易水道に対する支援制度を維持しつつ、統合を重点的に促進する為、補助制度の見直しが行われている。本村では各地区で説明会を行うなどして、平成21年度に『南阿蘇村簡易水道事業統合計画書』を策定し厚生労働省から認可を得、平成28年度末までに上水道を統合することになっている。その計画に基づき、水道関連施設等の調査を行うなどして、資産調査を進めた結果、築40〜50年が経過し、早急な改修が必要な施設が数多く見受けられた。結果、改修が必要な箇所の把握や新しい事業体系の構築に役立つよう、今後統合に向けた作業が進められていく。

どうなる？進むか水道インフラ

安心・安全な飲料水の供給は、言うまでもなくライフラインの中で最も重要なものである。将来にわたりこの安心・安全な飲料水を安定して供給し続けられるよう、また、より良い方法で管理・運営が行えるよう、水道事業の統合に向けた準備が進められている。水道事業の統合に関しては、まだまだ解決すべき問題「大規模災害への対応や施設整備への高額投資、それに反し、高齢化・過疎化等による低収益等」が山積しているが、一日も早く上水道の一元化が進むことを望む。